

登壇者プロフィール

事業委員長：池上久雄（いけがみ・ひさお 元東京大学理事・東京学芸大学客員教授）

三菱商事(株)在職中、日米仏三国で人事部長を歴任。その後、(社)日本貿易会常務理事及び同会設立のNPO法人「国際社会貢献センター」初代理事長。東京大学理事。日仏経済交流会会長。現在、東京学芸大学客員教授、ペンシルバニア州立テンプル大学ジャパン理事、世界貿易センタージャパン理事、(公財)日仏会館常務理事、新コスモス電機(株)監査役。フランス国家功労勲章シュバリエ受賞。

総合司会：秋尾沙戸子（あきお・さとこ ジャーナリスト）

研究対象は民主化、インドネシア政治、占領期。テレビキャスターを勤める傍ら、旧東欧・ソ連やアジアの国々を取材。上智大学大学院にて地域研究修士号取得後、米国ジョージタウン大学大学院外交研究フェロー。慶應義塾大学国際センター（東南アジアの政治文化）講師など。著書に『運命の長女：スカルノの娘メガワティの半生』（アジア・太平洋賞特別賞）『ワシントンハイツ：GHQが東京に刻んだ戦後』（日本エッセイスト・クラブ賞）。

オーパンドィスカッション司会：

荒木光彌（あらかき・みつや 株式会社国際開発ジャーナル社代表取締役・主幹）

専門分野は日本の対外援助（ODA）政策。1967年の「国際開発ジャーナル」（月刊）の創刊に参画して以来、編集者（社長兼務）として、アジアを中心とした開発途上国の政治・経済問題、日本の対外援助の現場を取材する。この分野における外務省、経済産業省、文部科学省の委員を務める。主な著書は「途上国援助－歴史の証言」1970、80、90年代の3冊、「グローバル 8つの物語－国際協力の足跡を追って」など。

オーパンドィスカッションパネラー：

立本成文（たちもと・なりふみ 人間文化研究機構総合地球環境学研究所長）

専門は人間学（人類学・社会学・地域研究・環境学）。マラヤ大学客員講師、インドネシア大使館一等書記官、京都大学東南アジア研究センター教授・所長、中部大学国際関係学部長・大学院国際人間学研究科長。毎日新聞社第2回アジア・太平洋賞特別賞（1990）、大同生命地域研究奨励賞（1990）、紫綬褒章（2003）。主な著書は『家族圏と地域研究』（京都大学学術出版会）、『共生のシステムを求めて－ヌサンタラ世界からの提言』（弘文堂）。

東浦 洋（ひがしうら・ひろし 日本赤十字社参与・日本赤十字看護大学特任教授）

日本赤十字社在職中、主として国際救援・開発協力を担当。在ジュネーブ国際赤十字・赤新月社連盟災害対策担当官、アジア・太平洋部長を歴任。現在、日本赤十字看護大学において、国際・災害看護を担当。私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、「国際的な災害看護教育研究及び教育トレーニングを行うための拠点形成」を目指すプロジェクトの研究代表。日本赤十字人道研究センター長として、世界の人道問題に関する赤十字の6つの大学の研究センターを運営。国際社会福祉協議会国内委員会理事。

廣田政一（ひろた・まさかず 目白大学社会学部教授）

専攻は国際経済学・観光経済学。APEC の貿易と観光の地域経済研究、開発金融のエキスパートとして海外経済協力基金、国際協力銀行で、国際機関の米州開発銀行（ワシントン DC）でエコノミストとして勤務。名古屋大学客員教授を経て現職。最近の著書に「日米経済関係論」（共著）勁草書房など。2007年スペインの国立サラマンカ大学の招聘により「アジアと日本の経済」の集中講義。テレビ埼玉「ビジネスウオッチ」のコメンテーター。

三浦 徹（みうら・とおる お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科教授）

専門は、アラブ・イスラーム史、中東地域研究。日本中東学会会長（2005-06年）。

「イスラーム地域研究」をはじめ、中東・イスラーム地域の総合的研究プログラムに参画。主な著作は、『イスラーム都市研究』（1991、共編）、『イスラーム研究ハンドブック』（1995、共編）、『イスラームの都市世界』（1997）、『比較史のアジア』（2004、共編）、『イスラーム世界の歴史的展開』（2011）など。

宮林正恭（みやばやし・まさやす 千葉科学大学教授・副学長）

専門分野は「リスク危機管理論」および「総合科学技術政策論」。通商産業省（現経済産業省）、科学技術庁（現文部科学省）、在米日本国大使館、宇宙開発事業団、理化学研究所などを経て現職。元科学技術政策研究所長、科学技術振興局長。博士（工学、東京大学）。著書は、危機管理—リスクマネジメント・クライシスマネジメント（2005.2丸善）、リスク危機管理—その体系的マネジメントの考え方（2008.9丸善）など。

発表者：

加藤 博（かとう・ひろし 一橋大学大学院経済学研究科教授）

最終学歴、一橋大学大学院経済学研究科博士課程（経済学博士）。東京大学東洋文化研究所助手、東洋大学文学部助教授を経て、現職。専攻はアラブ社会経済史、イスラーム文明論。主たる業績、『私的土地所有権とエジプト社会』創文社（発展途上国研究奨励賞）、『アブー・スィネータ村の醜聞—裁判文書からみたエジプトの村社会』創文社、『イスラーム世界論—トリックスターとしての神』東京大学出版会、『イスラーム経済論—イスラームの経済倫理』書籍工房早山。

武藤幸治（むとう・こうじ 立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授）

専門分野は開発経済学（中東）。日本貿易振興会（ジェトロ、当時、現日本貿易振興機構）にて中東アフリカ調査携わる。その間カイロ、ドバイ駐在。帰国後 JICA 専門家としてカイロに派遣され、エジプト貿易研修センター設立に係わる。帰国後、国際貿易投資研究所研究主幹を経て現職。

著書：「現状イスラーム経済」、「西へ広がるアジア経済」など。論文：シンガポールのイスラーム金融の実態、（立命館経済学）、世界金融危機とイスラーム金融（国際貿易と投資 N0.74）など。

床呂郁哉（ところ・いくや 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授）

1965年大阪生まれ。専門は人類学・東南アジア研究。フィリピン南部を中心にマレーシア、インドネシアなどのムスリム（イスラーム教徒）社会で調査研究を実施。主要著作に『越境—スルー—海域世界から』（岩波書店、1999年）。編著にIslam in Southeast Asia—Transnational Networks and Local Contexts（ILCAA, TUFS）、『東南アジアのイスラーム』（床呂郁哉・福島康博編。東京外国語大学AA研）など。

酒井啓子（さかい・けいこ 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

東京大学教養学部教養学科卒。英国ダーラム大学（中東イスラーム研究センター）修士。アジア経済研究所を経て、東京外国語大学総合国際学研究院教授。専門はイラク政治、現代中東政治。著書に『イラクとアメリカ』（第15回アジア・太平洋賞大賞）、『フセイン・イラク政権の支配構造』、『イラクは食べる』、『〈中東〉の考え方』、『〈アラブ大変動〉を読む—民衆革命のゆくえ』ほか多数。共編著に『イスラーム地域の国家とナショナリズム』、『中東・中央アジア諸国における権力構造』ほか。

中村安秀（なかむら・やすひで 大阪大学大学院人間科学研究科教授）

1977年東京大学医学部卒業。小児科医。JICA 母子保健長期専門家（インドネシア）、UNHCR（パキスタン）でアフガン難民医療に従事。ハーバード大学公衆衛生大学院研究員などを経て、99年より現職。「国際協力」「保健医療」「ボランティア」をキーワードに興味をもっている分野は広いが、どこの国にいても子どもがいちばん好き。主な著書は「国際保健医療のお仕事」、「国際緊急人道支援」、「国際ボランティア論」など。

内藤 耕（ないとう・たがやす 東海大学文学部教授）

インドネシアの農村、都市調査を専門とするほか、同国の放送政策について研究。本務校ではキャリア教育の全学的構築や就業力育成評価事業を企画運営。産業の空洞化に結びつく企業進出の研究には立場上複雑な思いも。元・東南アジア学会総務担当理事、現在日本マス・コミュニケーション学会総務担当理事。共著に『変わるバリ、変わらないバリ』（勉誠出版、2009年）、『都市下層の生活構造と移動ネットワーク』（明石書店、2007年）。

フロア討論進行役：

清水 学（しみず・まなぶ 帝京大学経済学部教授）

専門分野は中東・南アジア・中央アジアの地域研究、途上国経済発展論、比較経済体制論など。現在の関心は、世界経済の現段階と途上国への影響、金融システムにおけるイスラーム金融など。インド・ムンバイのターター社会科学研究所、エジプトの社会調査犯罪学研究所などで労働市場、経済政策決定過程などの現地調査を行う。アジア経済研究所、宇都宮大学、一橋大学を経て現職。主な著書は『中央アジア—市場化の現段階と課題—』、『中東新秩序の模索—ソ連崩壊と和平プロセス—』など。

山田俊一（やまだ・としかず 日本貿易振興機構アジア経済研究所非常勤嘱託職員）

専門分野は国際貿易論。エジプトでは計画省、カイロ大学に所属し、経済改革（金融自由化、民営化政策など）についてエジプト人学者と共同研究（英文）。主著は「発展途上国の金融制度と自由化（堀内昭義・山田俊一編）」、「エジプトの政治経済改革（山田俊一編）」など多数。最近ではエジプトのイスラーム金融、社会保険・年金制度も執筆。東京外国語大学、早稲田大学、明星大学（現在も）などで非常勤講師。この間、外務省国別援助計画エジプト主査。我が国の対中東経済協力の評価なども多数実施（旧通産省委託）。

末廣 昭（すえひろ・あきら 東京大学社会科学研究所長・教授）

アジア社会経済論。タイ国の研究、アジアの工業化、域内協力、社会保障制度などを研究。最近は中国と東南アジアの関係に関心をもつ。1995年より東京大学社会科学研究所教授、2009年より同研究所所長。『タイー中進国の模索』（岩波新書）、『キャッチアップ型工業化論』（名古屋大学）、『東アジア福祉システムの展望』（編著、ミネルヴァ書房）など著書多数。日経経済図書文化賞、大平正芳記念賞、アジア太平洋賞大賞など受賞、2010年紫綬褒章受章。

田中耕司（たなか・こうじ 京都大学次世代研究者育成センター特任教授）

東南アジア地域研究を専攻。京都大学東南アジア研究所長、同地域研究統合情報センター長を歴任。現在、京都大学白眉プロジェクトのプログラマネージャーとして同プログラムをコーディネート。東南アジアの生態環境、農林業、生物資源管理に関するフィールドワークに従事。主な編著書に『講座 人間と環境 第3巻 自然と結ぶー「農」にみる多様性』（昭和堂）、『岩波講座「帝国」日本の学知 第7巻 実学としての科学技術』（岩波書店）など。

大河原昭夫（おおかわら・あきお 株式会社住友商事総合研究所取締役所長）

住友商事グループのシンクタンクとしてマクロ経済分析及び国際情勢分析を担当。1973年、住友商事入社。同社海外運輸部、海外プロジェクト室などを経て、自動車部門に勤務。うち84年～86年、ロサンゼルス駐在（マツダ・モーターズ・オブ・アメリカに出向）。91年～97年の6年間、ワシントン事務所。97年から情報調査部国際調査チーム長、情報調査部長などを歴任後、2004年4月より住友商事総合研究所に出向、2006年4月より現職。

古田元夫（ふるた・もとお 東京大学大学院総合文化研究科教授）

専門分野はベトナム地域研究、現代史研究。東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻所属。東京大学教養学部長、副学長、理事などを経て、現在は附属図書館長。著書に『ベトナムの世界史』、『ホー・チ・ミン』、『アジアのナショナリズム』、『ドイモイの誕生』など。日本ベトナム友好協会会長、日本ベトナム研究者会議副会長、ベトナム国家大学ハノイ校名誉博士。